

# J H F 理事会議事録

日 時： 2022年3月11日(金) 13:00～16:45

場 所： J H F 事務局会議室(北区中里11-1-1-301) /ZOOM 会議

## 1. 議長・議事録作成人指名

議長： 安田英二郎 議事録署名人：出席理事監事全員

## 2. 定足数確認

出席【理事】

安田英二郎 芦川雄一郎

オンライン(ZOOM) 小林秀彰 大沢 豊 竹村治雄 濱田 革

橋田明夫 山口隆文 (4-5号議案から参加)

【監事】 岩村浩秀

(出席理事8名 今理事会は定足数を満たし成立した)

欠席【監事】 大森健一

## 3. 理事・監事の一言

審議事項が多いため特に発言はなかった。

## 4 審議事項

### 第4-1号議案 2022年度事業計画の承認について

事業方針について会長から提案があり、種々意見を行い、最終的な事業方針案を以下の通り決定した。

2年前から新型コロナウイルス感染症の流行が続いてきましたが、欧米ではマスクが義務ではなくなる国も現れ、日本でも3回目のワクチン接種を経て通常的生活への期待が高まってきました。2022年はこれまで室内にこもりがちだった人々の関心も外へと向かうでしょう。今年はスカイスポーツにとっても復活の年になりそうです。JHFではスカイスポーツが感染リスクの少ないスポーツであることを踏まえて、一般の人々がハングライダーやパラライダーを体験したり、その競技を観戦する機会を増やすなどの普及活動に取り組んでいきます。安全は普及の前提です。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります

結果 理事全員一致(議長を除く6名)で承認

事業の具体的内容については、文言一部追記と、第12項と第13項を入れ替えることとしそれ以外は原案通り承認した。

常設委員会事務局の事業については各委員会担当理事からのに対して質疑応答を行い、内容を確認した。安全性委員会については、事故情報の収集、機体登録制度の改定等が紹介された(竹村理事)。ハングライダーの機体整備はあるがパラライダーは必要ないのかの意見があり(芦川理事)、パラライダーについては委員会で検討することとし、事業計画は原案通りとすることとした。教員・スクール事業委員会については(橋田理事)原案通り。

HG競技委員会は項目としては、競技者育成プログラムが新しく追加されそれ以外は例年通りであることが説明され、原案通り承認された。

PG競技委員会については、原案について説明がありクロスカントリー日本選手権に足尾で開催計画がされていることが紹介された（濱田理事）。

制度委員会についても事業計画について小林理事から説明があり、原案通り承認された。

補助動力委員については橋田理事から事業計画について説明があり、原案通り承認された。

ハングパラ振興委員会の事業計画については濱田理事から説明があり原案通り承認された。

事務局の事業案については芦川理事からITシステムの更新を検討する旨の説明があり、原案通り承認された。

議長より事業計画全体に質問意見がないか確認があり、濱田理事より去年の総会での意見を踏まえてより具体的な内容を記載してはどうかとの提案があり、小林理事から40周年記念事業を記載してはどうかとの提案があった。竹村理事から事業計画はいつまでに確定する必要があるかとの質問があり、公益社団法人として内閣府に今月中に提出する必要があること岩村監事から説明があり、議論の結果、40周年記念事業のみを原案に追加することが承認された。

#### **修正した2022年度事業計画について、出席理事全員（議長を除く6名）の賛成で承認**

#### **第4-2号議案 2022年度予算の承認について**

芦川理事より予算について説明がなされた。収入の部についての説明の後、岩村監事から会費値上げによる会員減の値上げ前の予測と実態についての質問があり、小林理事から実際の予測よりも会員数が減少していない旨報告があった。コロナの影響で2021年度は2020年度よりB級技能証の申請が増えるなど数値的に良い傾向もみられる等が報告され、財務状況が安定している間に繰越金を積んでおくことが必要との指摘があった。

次に芦川理事より支出についても説明がなされた。今年度の決算予想とほぼ同様の予算としていること、各委員会からの予算は、ほぼ満額を確保できた旨報告された。40周年記念イベント経費として50万円を確保していることが安田会長より報告された。

#### **2022年度予算について、出席理事全員（議長を除く6名）の賛成で承認**

#### **第4-3号議案 2022年度委員選任について**

竹村理事より、委員を応募した際の書類はだれが確認しているのかと質問があり事務局と各委員長とで相談して確認している旨回答があった。新任委員に関しては全理事が知っているわけではないので、各委員会担当理事から簡単な紹介がなされた。橋田理事から欠員補充のプロセスについて質問があり、委員会規程を確認し期中でも理事会承認で欠員が補充できることが再確認された。大沢理事よりPG競技委員の定員が5に対して6名が選任されていることが指摘されたが、これはアキュラシー競技ができた際にアキュラシー特別枠で1名定員超過を理事会で承認したためであり、今後は定員増を制度委員会に諮問することを確認した。

#### **委員選任について、出席理事全員（議長を除く6名）の賛成で承認**

## 2022年度JHF委員（あいうえお順）

PG競技委員会：岡芳樹、上山太郎、小林大晃、鈴木洋史（アキュラー）、長島信一、村上修一  
HG競技委員会：櫻井大朗、鈴木皓子、中西亮太、箕谷将明、牟田園明  
教員スクール事業委員会：北野正浩、西泉隆広、福田一郎、福田武史  
制度委員会：泉秀樹、井上潔、中瀬誠、宮川雅博  
補助動力委員会：小川勝良、賀家慎司、須藤彰、宮本司  
安全性委員会：伊尾木浩二、佐藤克久、西本一弘、目黒敏、山本貢  
ハングパラ振興委員会：井上潔、篠塚富偉、鈴木由路、堀江讓  
役員選任実行委員会：荒井稔、柿澤貴宏、篠塚富偉、鈴木由路

### 第4-4号議案 成人年齢引き下げ対応について（小林副会長）

資料に基づいて小林理事から、制度委員会からの提案として、各種規程から20歳、成年、未成年の語句を検索し、成人年齢引き下げに伴う対応案が提示された。

安田会長から歳の字に統一するのはどの範囲かとの質問があり、小林理事から技能証規程の範囲での統一であることが説明された。議論の結果、提案通りの内容で決議を行うことが確認された。

**技能証規程の成人年齢の引き下げ対応について、出席理事全員（議長を除く6名）の賛成で承認**

### 第4-5号議案 更新講習会規程一部訂正について（小林副会長）

資料に基づいて、小林理事から制度委員会からの提案として更新講習会規程の一部訂正について、東京都連からの指摘に基づいて、更新対象から教員検定員証を外す訂正であることが説明された。

訂正としてとり扱うべきか改定として取り扱うべきか議論し、助教員検定員を訂正削除した前例があることが紹介された。竹村理事から改定でなく訂正の記録を更新講習会規程に残すべきではないかとの意見があり、議論の結果、訂正として取り扱うが訂正記録を助教員検定員の訂正と共に、規程に訂正日付と訂正内容を記載することし、文言の詳細は制度委員会に一任することとした。

**JHF更新講習会規程一部訂正について、出席理事全員（議長を除く7名（5号議案より山口理事出席）の賛成で承認**

### 第4-6号議案 HG競技育成プログラムについて（大沢理事）

大沢理事よりHG競技委員会からの提案が紹介された。

本件については、すでに予算案で承認されているので審議事項とはせずに報告事項として取り扱うことが決議され、全理事の賛成で承認された。その後、本件について、種々意見交換を行った。

### 第4-7号議案 PR TIMES 契約について（濱田理事）

振興委員会からのプレスニュースリリースの配信サービスであるPR TIMESと新たに契約を結ぶ提案について担当理事から説明があり、契約は一年単位であること、契約を行うことによるメリット並びに

デメリット等が紹介された。本件について、質疑応答、種々意見交換を行った結果、JHF名義使用承認規程の第4条2号の（イ）に抵触する可能性が指摘された。結果、前項に加えて、別紙3のロゴマーク・イベント等の写真の使用権がどのような使い方を想定しているかについて、PR TIMES側へ確認が必要ではないかとの意見があった。加えて、JHFのページへPRタイムズのロゴマークの掲示は賛助会員の権利を侵害しないかの懸念があり、賛助会員と明確な区別ができれば問題ないとの意見があった。他方、PR TIMESがJHFのロゴマークを利用した結果、JHFの公益性に疑義が生じるような使い方がなされる可能性がないのかなど、本件について引き続き確認が必要ではないか等の意見があった。その結果、本件は継続審議とし、疑問点を振興委員会から再度PR TIMESへの確認を行ったのち決議してはどうかとの提案があった。懸念事項が明確となれば、一年契約なので、契約してもよいのではないかという意見と慎重にすべきであるという両方の意見があったが、継続審議として取り扱うこととした。

## 5 協議事項

### 第5-1 上級タンデム有効期限について（小林副会長）

資料に基づいて小林理事から各種技能証の有効期限について現状の説明があり、技能証規程との整合性が取れない上級タンデム技能証の有効期限をどうするかについて議論がなされた。種々意見交換の結果、上級タンデム技能証、リパック認定証の有効期限は、技能証規程を改正して3月31日にそろえることとすることで合意した、例としては、技能証発行後3年を経過したのちの3月31日を期限とする等の文言に改定する。

上級タンデムは有効期限の1年前以降に更新検定会を受験する。教員・助教員の更新は3年間更新講習の内容は同一なので、受講終了証は3年有効とする。これらの具体的な改定内容等は、スクール事業委員会でまず議論することを確認した。

### 第5-2 JHF40 周年イベント・開催場所の提案（小林副会長）

小林理事より、式典は東京で実施し、イベントは大阪で実施してはどうかとの提案があった、イメージとしてはトーイングを使った各種イベント、体験会 補助動力も使える。アキュラシーの大会も考えられる。これらの行事に加えて、写真展などの啓発イベントも必要ではないか（安田理事）。ホテルの稼働やスクールの関係で2月末から3月がベスト、アキュラシーの日本選手権をする場合は、事前にアキュラシーの大会を開催する必要がある（山口理事） 場所的にはどうか（安田）不特定多数がくる場所である（山口）2月はイベントとしてはどうか？ 3月は暖かいのでは、3月ではスクールの協力を得ることが難しい。関西は無理だと思う（山口）

2月に大阪で開催するとすれば、トーイングでパラとハングのデモンストレーション、モーターパラ子供の体験会などを行う天候次第、裏番組は個人的にはVRを使った体験もありかと思う。マスコミへの広報もきっちりしたい。（町田さんが適任）関西の県連プラス福井、石川、富山県連も加えてはどうか？ 継続協議とするとともに各県連にも40周年事業の企画提案を依頼する。

### 第5-3 理事・委員日当について（芦川副会長）

委員会へ委員以外の方が参加した場合の、日当・交通費に支払いについて、ルール化されていないのをルール化する提案が芦川理事からあり、意見交換を実施し、実際に日当・交通費を支給する場合は事前承認を徹底する方がよいことの賛同が多く、事前に提案通りの対応とすることを確認した。

大沢理事から協議事項でなく、審議事項でないかとの発言があり、岩村監事から本来あるべき姿が定まっていない時点では、審議事項としての明文規則は作れない。

事前に代表理事の承認が必要ということで、大旨方針は賛成したい（安田理事）。競技が行われている時に委員会が開催されても交通費は出していない、いつ交通費が出て、いつ出ないのかのルールも必要ではないか？（山口理事） ルールで明文化は難しいので、代表理事の裁量を残して欲しい。代表理事の裁量に頼ると委員会ごとの判断が分かれることにならないか？等の種々の意見があった。

安田会長より、すべてをルール化して当てはめるのは困難であり、とりあえず今回の提案を共有したいとの提案がなされた。

代表理事の事前承認を得て、日当・交通費の支払いを行うことを全員の賛成で確認した。

## 6 報告事項

### 6-1 予算実績表

資料に基づいて予算実績を確認した。

### 6-2 フライヤー会員数、技能証発行件数

小林理事より会員数減少の予測と実測値の報告があった。ほぼ予測通りの減少であることが確認できた。

この議事録が事実と相違ないことを確認し記名押印する。（出席理事）  
理事

芦川雄一郎 印

大沢 豊 印

小林秀彰 印

竹村治雄 印

橋田明夫 印

濱田 革 印

安田英二郎 印

山口隆文 印

監事

岩村浩秀 印

議事録作成 竹村治雄